第 2 回新東名高速道路 高松トンネル施工技術検討会の開催について(2022 年 8 月 31 日)

中日本高速道路株式会社 東京支社 秦野工事事務所(神奈川県秦野市、所長・伊原泰之)は、2022 年 8 月 31 日に、新東名高速道路 高松トンネル施工技術検討会(座長：西村和夫　東京都立大学理事)を開催しました。

検討会では、新東名高速道路高松トンネルの工事区間の一部で脆弱な地山等が出現したことを踏まえ、これまでに実施してきた調査、設計並びに施工などについて審議を行いました。

１．議事要旨

(1) 第１回検討会議事概要

・第１回検討会における議事を確認。

(2) 追加調査結果とトンネル掘削状況

・トンネル掘削は 7 月末時点で坑口から、上り線は 1,319m、下り線は 1,189m まで掘削完了。湧水により劣化する凝灰岩が断続的に出現しているため、対策工を行いながら慎重に工事を進めている。

・既往調査（弾性波探査及び空中電磁探査）によって推定している断層破砕帯に加え、追加調査（坑内からの水平ボーリングと弾性波探査）によって、実在性を確度高く確認。

・水平ボーリング孔からは湧水も確認されているが短期間で減水しており、変状リスクの低減が図られたと評価。

・上記調査結果及びトンネル掘削状況を踏まえ現地に適した支保構造及び対策工によって、安全・着実に進捗が図られていることを確認。

(3) 今後の進め方について

・追加調査は切羽前方の地質把握と水抜きに対して有効な手段であり、断層破砕帯近傍は慎重を期す必要から、今後も調査を継続。

・「神縄断層」と「中津川断層」に挟まれた当該箇所では、性状に大きな変化はないと考えられるため、これまでと同様の支保構造及び対策工を継続し、安全かつ慎重に工事を進める。

・今後出現を推定している断層破砕帯は、「松田山累層」を細分化（大沢凝灰角礫岩泥岩互層・横道沢砂岩泥岩互層）した地層区分の変化点のため、地質の性状、水位など過年度調査結果及び追加調査（水平ボーリングと弾性波探査）結果を踏まえ次回（第３回）検討会を開催。

以　上